
偏見・私見「粹」の考察

ミズキシホ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偏見・私見「粹」の考察

【Nコード】

N5924C

【作者名】

ミズキシホ

【あらすじ】

「粹」な生き方・振る舞い、身につけたいんですけどね…。

「粹」が好きである。

「粹」でありたいと思う。

さて、「粹」とはどんなであろうか。

＜飽くまでも＞、

「わたし」の思う「粹」について、考察してみる。

わたしの思う「粹」とは、
端的に言つと、

「さりげない」

である。

どんなに高価なものを身につけていようと、
それを本人が自分で「自己申告」してしまった瞬間、
それは、
わたしにとって、

「陳腐」なものに成り下がる。

（まあ、場合にもよりますが。）

といつても、

それは人それぞれの考え方だから、
軽蔑したりする、

などは到底ないけれども。

と、いうことを踏まえていただいて、次。

気遣いがある。

押し付けがましくなく、

気遣いされた方が気付かないくらいの、
気遣い。

親切である。

困惑している人がいたら、
見ず知らずの人だろうと、

知り合いだろうと、友達だろうと、
仲たがいをしている相手だろうと、
手を貸して上げられる。

押し付けがましくなく。

実に素敵である。

粹だなあと思う。

外でお酒を飲んでいるとき。

わけもなく（いや、あるのかも）、
議論なんかを吹っかける人は、
よくいるけれど、

そんな人に、

腹を立てることなく、

サラリとかわせる人。

お金に執着する事を、
カッコワルイ、とは、
ちつとも思わないし、
むしろ、いいと思う。

だがしかしだ。

これは、いやだ。

【割り勘（会計）でもたつく】

みつともないつたらない。

知識をひけらかさない。
能ある鷹は爪を隠す。

これは、粹の真髄でしょう。

こんな方がいらした。
その方は、豪快に笑い、
イヤミのない、

普段から素敵な方（50代男性）ですが、

「ボクはね、

日本酒と、日本茶しか飲まないんだ。」

日本茶の次に、コーヒーをお持ちした時の一言です。

わたしを気遣って、

「コーヒーは飲めないんだ。」

とはつきりおっしゃらず、

オブラートにくるんで差し出された言葉。

思わず、

「ンマー、

それは、

粹な感じですねエ！」

本心から、

そう言った。

「ウマイこと言うネエ、キミ！」

アラ！

また、オジサマの心をくすぐってしまったワ。

こんなことを書くわたしは、

粹ではない 笑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5924c/>

偏見・私見「粹」の考察

2010年10月12日03時20分発行